

Rihoの ドイツ便り

No.51

AutoStadt で身近な例から 持続可能な社会について 学ぼう

ヴォルフスブルグ市にあるフォルクスワーゲンの体験施設「アウトシュタット(自動車の街)」の、持続可能な社会についての展示「LEVEL GREEN(レベルグリーン)」が好評を得ています。

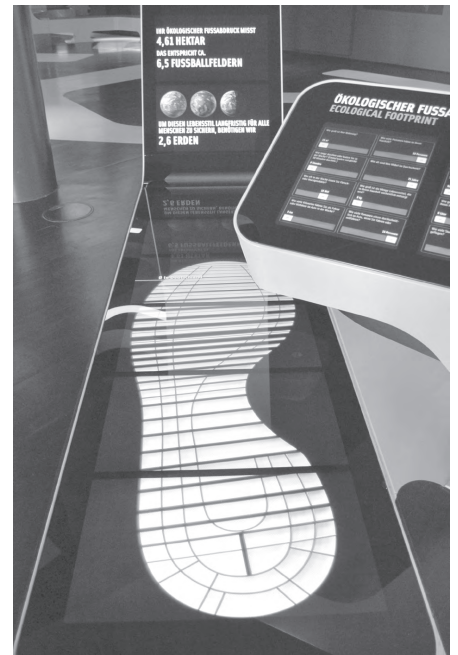
ヴォルフスブルグ市は北ドイツに位置し、ドイツ大衆車メーカーフォルクスワーゲンの本拠地。この施設は大人も子どもも楽しめる内容で、フォルクスワーゲンだけでなく車の歴史や仕組み、交通など広い視点で展示しており、年間30万人が訪れています。レベルグリーンの展示は昨年6月に始まり、「環境」「社会」「経済」の3視点から持続可能な世界について考えさせられる内容となっています。

この展示のよいところは、何よりもわかりやすいこと。身近な例をひいて、自分の生活を見直すきっかけを与えてくれます。例えば「環境の足跡」(写真)という展示では、食習慣や移動距離、部屋の温度など自分の生活様式をインプットし、全世界の人が同じ生活をすると、地球がいくつ必要かがわかります。例えば世界中の人が毎日朝晩に肉を食べると、それだけで地球が1.6個必要。これは日本とドイツを年に一回往復するよりも、ずっと大きな負担を地球にかけていることとなります。

車を持たずに自転車で移動し、肉を食べるのは週2日くらい。がんがん冷暖房せず、年に一回日本に里帰りするだけの私の生活様式でも、地球は2.6個必要とのことです。

また世界地図の上に水が飛び交っている展示では、物の輸出は水の輸出であるというメッセージが込められています。例えばジーンズ一本製造するために、8000リットルの水が必要であり、オレンジ一個にも150リットルの水が投資されています。牛肉一キロにはなんと1万6000リットル！ドイツ人の生活様式を維持するには、一日平均4000リットルの水がいるそうです。

電気自動車のしくみやユートピアな未来像についても、専門知識を背景にわかりやすく説明されています。学校の子どもたちも社会見学に多く訪れています。



田口理穂 ごみかんドイツ特派員